

## 『汐製菓会社の新作 105 だら焼

き6』

### 登場人物

- ・ 汐（しお）…汐製菓会社社長。30代。冒険心旺盛で、ユニークなアイデアを次々と思いつく。面白いことが大好きな快活な性格。
- ・ 塩田（しおた）…汐の秘書。30代。真面目で心配性。何事にも慎重で、汐の奇抜なアイデアには常に疑念を抱くが、お菓子が大好きで製菓会社に就職。
- ・ ジム（アメリカ支社社員）…30代。汐製菓のアメリカ支社勤務。アメリカンな感覚を持ち、珈琲味や洋菓子文化に精通している。
- ・ ソフィア（ヨーロッパのグルメ評論家）…40代。世界的に有名なグルメ評論家。厳しい目で日本のお菓子を評価するが、プロ意識は非常に高い。

・カナ(若手マーケティング担当): 20代。SNS世代で、新商品PRを担当。時折おちゃめな一面も見せるが、SNSにおけるトレンドをしっかりと押さえている。

---

## ・オープニングー汐のアイデア発表(約10分)

(汐製菓のオフィス。汐が社員たちに向かって熱く語りかける)

汐:「皆、聞いてくれ! 次の新作、決まったよ! 名前は『どら焼き9』だ! 生地は珈琲味で、中身はあんこ! これで新しい和洋折衷が誕生するんだ!」

(塩田が不安そうに立ち上がる)

塩田…「社長、それって、和菓子らしさがなくなりませんか？珈琲味のどら焼きって、どうなんでしょう…？」

汐…「だからこそ面白いんだよ！あんこも生地も、今までの枠を超えて、もっと新しい形に進化させたいんだ！」

（社員たちがざわつく）

社員A…「でも、あんこも珈琲って、どうしても相性が…」

汐…「そもそも、和洋折衷の『和』だけを守っていけば、新しい何かは生まれないんだよ！これが新しい挑戦なんだ！」

（塩田がため息をつきながら）

塩田…「社長、またしても、奇抜すぎるアイデアが…」

（汐がにっこり笑って）

汐：「これが面白い世界を作るんだよ、塩  
田！それに、やってみないとわからないだ  
ろ？」

---

## 2. 試作とグルメ反応 | 国内外の試食 (約15分)

(汐製菓の工場。試作が完成し、社員たちが  
どら焼きのを試食するシーン)

社員B：「これが、新しい『どら焼き』です  
...。」

(汐が手に取る)

汐：「さあ、食べてみる！珈琲味の生地がど  
んな感じか、すぐわかるぞ！」

(ジムがアメリカから電話で参加)

ジム（電話越し）：「おお！新しい』どら焼きの』か。生地が珈琲味って、アメリカ人の好みにぴったりだな。試食してみるよ！」

（ジムがアメリカのオフィスでどら焼きを食べるシーン）

ジム：「うーん、面白い味だな！珈琲の苦味とあんこの甘さがマッチしてる。でも、日本のどら焼きらしさって、どうしても消えてる気がするな…。」

（次に、ヨーロッパのグルメ評論家ソフィアが登場）

ソフィア：「私はあまり…これ、あんこがあっても、あんこ感が足りない気がする。」

汐：「だからこそ、あえて珈琲味にしたんだ

よ！あんこの甘さが引き立つんだ！」

ソフィア：「和菓子の伝統が壊れてる気がするわ。でも…新しい何かを生み出したいという意欲は感じるわね。」

### 3. 食レポと論争（約10分）

（汐製菓の工場内。試作が完成し、ジムとソフィアがそれぞれの食レポを開始。カメラが彼らを捉える。）

汐：「さあ、二人とも！これが僕の最新作だ、思いっきり食レポしてくれ！感想がどんなものでも、どら焼き<sup>9</sup>に込めた自信があるからね！」

ジム（アメリカから電話越し）：「了解！食レポ、行くぜ！」

（ジムが電話を使いながら、どら焼き<sup>9</sup>を手取る。）

ジム：「うーん、まずは匂いだな…かなり濃厚な珈琲の香りがして、これはいい感じだ。あん

この香りも負けてないけど、やっぱり珈琲が勝  
ってるな。日本のどら焼きとは思えない。」

(ジムがどら焼きを一口食べる)

ジム：「ん！これは…意外にいける！生地がち  
よつとパリつとしてるし、なんて言うか…クレー  
プのような感じもあるかな。でも、ちよつと驚  
いたのが、このあんこの甘さ。生地の苦味と意  
外と合うもんだな！」

(ソフィアがヨーロッパの席から冷静に口を挟  
む)

ソフィア：「確かに、珈琲の香りはすごく強い  
わ。でも、あんこがあまりにも薄く感じるの。  
日本のどら焼きって、もっとあんこの味が主役  
になるべきじゃない？」

ジム(電話越し)：「えっ、それは逆だよ、ソフ  
ィア！あんこが強すぎると、珈琲の香りが埋

もれちゃうだろ？ バランスが取れてるってことだよ。」

ソフィア：「いや、私はあんこが主役であって欲しいわ。それに、この珈琲の味が和の要素を完全に消しちゃっているのよ。これって…和菓子としてどうなのかしら？」

汐：「まさに、和洋折衷！ あえて和菓子の枠を超えた新しい挑戦なんだ！」

ジム：「うん、それは分かる。でも、俺としては『和』って感じはあまりしないな。でも、これがもしアメリカで出たら、絶対受けると思うよ。」

（ジムが少し考え込みながら）

ジム：「ああ、でも…その通りかも。日本の伝統を守りつつ、こうやって新しい要素を取り入れるのはすごく面白いな。だから、アメリカで大ヒットするかもしれない。」

ソフィア：「でも私は、やっぱり『和』の良さを  
感じないのよ。私はこのどら焼きにあんこが主  
役になって欲しいわ。」

ジム：「だから、ソフィア、アメリカン・スタイル  
で行くべきなんだって！ あんこが主役なんて、  
もう古いんだよ！」

ソフィア（怒り気味に）：「なんですって！ 古  
いなんて、あなたの意見に賛同できないわ！  
あんこは和菓子の魂なのよ！」

（汐がにやりと笑いながら、二人のバトルを見  
守る）

汐：「おお、まさに食レポバトル！ この激しい  
意見交換こそが、新しい食文化を作るん  
だ！」

（ソフィアが肩をすくめる）

ソフィア：「じゃあ、私が納得するためには、も  
っと『あんこ感』が強い方がいいってことよ。」

ジム：「そういう問題じゃない！このどら焼きには、新しい味の冒険が詰まってるんだ！」

（汐が割り込む）

汐：「皆、聞いてくれ！これが『新しい和洋折衷』ってやつだ。和菓子に限らず、食文化ってどんどん進化していくもんなんだよ！」

（ジムがスマホでSNSをチェックしながら）

ジム：「ああ、でも…これがSNSでバズったら、世界中が食べたくなるんじゃないかな？最初は批判的だったけど、今じゃ意外と楽しくなってきた！」

（ソフィアが冷静に口を閉じ、どら焼きのを最後にもう一度食べて）

ソフィア：「うーん、最初は信じられなかったけど、この味、もしかしたら癖になるかも…。」

ジム：「だろ？だから、食べてみろって！これが新しい時代の味だ！」

（ソフィアが少し納得した表情を見せる）

ソフィア：「まあ、最終的には…面白い挑戦よ。私はまだ納得していないけど、面白い部分を感じるわ。」

ジム：「よし！これでやっと、お互いの意見がわかってきたな。あんこと珈琲の融合、いいバランスだよ！」

#### 4. 新商品発表会（約10分）

（夕製菓の新作発表会。メディアや消費者たちが集まる会場）

夕：「ついに発表だ！『どら焼き9』！日本の伝統と西洋の味が融合した、新しいお菓子です！」

（試食が始まり、参加者たちが戸惑いながらも食べ始める）

記者A：「え、これがどら焼き？なんか…違うけど、意外に美味しい？」

記者B：「うーん、最初は驚いたけど、どんどん食べたくなってきた。あんこの甘さと珈琲の苦味が合うのか？」

ソフィア（再登場）：「私の意見は変わらないわ。珈琲味の生地には賛成できない。でも、確かにクセになるかもしれない。」

（ジムがアメリカの意見を代表して）

ジム：「アメリカでは、この『どら焼き』が大ヒットする予感だ！珈琲の風味がすごく新鮮だ！」

（プレゼンテーションが続くが、参加者の反応はまちまち）

## 5. SNSでのバズリ(約20分)

(数日後。SNSが盛り上がり始め、SNS上で話題になっていく)

カナ:「社長、見てください!『どら焼きの』がSNSでバズってます!『#どら焼きのチャレンジ』がトレンド入りしました!」

(画面には、インフルエンサーたちがどら焼きのを食べている動画が次々にアップされる)

インフルエンサーA:「これ、まじで美味しい!

珈琲味のどら焼きって新感覚!」

インフルエンサーB:「最初は疑ったけど、だんだんクセになってきた!」

ジム:「アメリカのユーザーたちが爆発的にシェアしてるぞ!みんな『新しい』って言ってる!」

ソフィア:「予想以上の反響:確かに、これは新しい流れかもしれないわね。」

(SNSの拡散が続き、汐のアイデアが世界中で認められていく)

汐：「こんなに反響があるなんて！面白いことを思いついて本当に良かった！」

---

## 9. 結末 - 汐の次なる挑戦(約10分)

(汐製菓のオフィス。社員たちがSNSの反応を見ている)

塩田：「社長、やっぱりすごいですね。『どら焼き9』、本当に大ヒットです。」

汐：「うん、次は何を作ろうかな…。やっぱり、面白いことを追求し続けたいんだ！」

(塩田が心配そうに)

塩田：「でも、次は何を思いつくんですか

…?」

汐…「それは…秘密だよ。新しい挑戦が待っているからね。」

(最後に笑顔で締めくくる)

幕